

笑顔

熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山
 熊本市中央区保田窪1丁目1-33 第2大田ビル1階
 第36号 電話:096-241-0230 FAX:096-241-0232
 平成28年7月 E-mail:sasaeriaobiya@kyouninkai.jp
 http://www.kyouninkai.jp/obiya /



新サロン誕生!



帯山校区の龍蛇平公園、憩いの家にて

『帯山1町内サロン』がオープン!

当日は地域の方々や民生委員さん、ボランティアの方々が主体となって茶話会をしました。始めに自己紹介を含め、地震の時の体験を各々に語って頂きました。「自宅から怖くて出れなかった」「民生委員さんが暗闇の中避難するため声掛けに回られた」…等々自身の体験をお話しされていました。震災を振り返ることによって、その恐怖を認め合い、一緒に乗り越える事で地域での支え合いが更なることを実感しました。

▼会の途中では、公園で遊んでいた親子の飛び入り参加もあり、場を和ませてくれました♪



平成28年度 第1回「地域ケア共同推進会議」の開催

H28.6.25(土) フォレストにて



今年度第1回目の地域ケア“共同”推進会議が開催されました。この推進会議では、地域包括ケアシステムの構築に向けて、帯山中学校規模での生活支援・介護予防領域を中心に、不足する資源の開発と支援の仕組みづくりを協議してまいります。主催は、地域支え合い“共同”体制づくり推進協議会で、平成26年度には、75歳以上の一人暮らしの高齢者と民生委員さん方のアンケート調査や先進地の視察研修等を行いました。更に平成27年度は、各小学校区やそれぞれの町内単位での実情に合わせた対応策を検討し、町内のサロンや体操教室、野菜の移動販売等の新しい助け合いの活動がスタートしました。今回の会議では、来年度に予定されております新しい総合事業のスタートを見据え、より具体的な行動(サロンや介護予防教室の充実、買い物支援等)について熱心に議論されました。今回、この3校区の推進協議会は、まさに「協議体=共同体」という印象を強く感じました。

校区やそれぞれの町内単位での実情に合わせた対応策を検討し、町内のサロンや体操教室、野菜の移動販売等の新しい助け合いの活動がスタートしました。今回の会議では、来年度に予定されております新しい総合事業のスタートを見据え、より具体的な行動(サロンや介護予防教室の充実、買い物支援等)について熱心に議論されました。今回、この3校区の推進協議会は、まさに「協議体=共同体」という印象を強く感じました。

「健康体操教室」開催!



平成28年4月14日
 ▲知っている曲に合わせて、とても参加しやすいですよ♪
 でも次の日は見事に筋肉痛になりました~(泣)

帯山西校区コミュニティセンターにて健康体操教室が始まりました。この教室は、住民主体となり「三百六十五歩のマーチ」や「人生いろいろ」等、皆さんに馴染みのある曲に合わせて体操をします。時には脳のトレーニングを組んだ動きも加わり、まさに、**身体と脳のトレーニング**です!

毎月第2・第4木曜日の午前10時から、どなたでも参加可能! 費用は月500円! 興味のある方は、ささえりあ帯山までご連絡下さい。主催者の方にお繋ぎいたします。

「認知症介護家族のつどい」

震災後で落ち着かない日々が続いている最中、中止すべきか判断に迷いましたが、このような状況だからこそ家族の話に耳を傾ける機会が必要であると思い、6月4日(土)に開催致しました。当日は、数名のご家族の参加があり、震災直後の混乱や震災後数日が経過した頃に困った事などをお話し頂きました。認知症の方は、認知機能の低下により周囲の状況を把握することが難しく、避難誘導するのに苦慮したという話を聞かせて頂きました。ご家族の体験談を直接聞く事ができ、私達の今後の活動に大変参考になりました。※ 次回の開催は、9月3日(土)午後1時30分からです。興味や関心のある方は是非、参加されてみて下さい。



「飲み今夜ん隊」(親睦会)

H28.6.25(土) in 水前寺共済会館グレースシア

第3回地域支え合い「共同」体制づくり親睦会
 飲み今夜ん隊
 主催: ささえりあ帯山「地域包括ケア推進協議会」 共催: 地域支え合い「共同」体制づくり推進協議会

今回で第3回目となります親睦会も、帯山中学校校区の地縁組織、医療・介護



サービス事業所を中心に、様々な機関や団体様にお声を掛けさせて頂きました。震災後、未だ皆様方におかれましては大変なご苦労があることと思っておりますが、この親睦会にご賛同頂き、総勢150名の方々に参加して頂きました。親睦会を通じて共通のコミュニティを実感し、地域包括ケアを創り上げていくための共感や連帯感が生み出された印象でした。

センター長 那須 久史

皆さまに感謝です!

新人紹介!

6月1日よりフォレスト熊本から異動になりました、井芹美久野と申します。帯山西校区の出身で、育ってきた地域で働けることを嬉しく思います。以前のフォレスト熊本では介護職をしておりました。社会福祉士として働く事となり分からない事も多々ありますが、皆様に地域の事などを教えて頂きたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



★編集後記★
 未曾有の大震災を2度も経験した熊本ですが、現在も余震は続いています。震災前の日常を取り戻しつつありますが、ご自宅の屋根や、壁の修理が出来ないまま生活を送っている方が多くいらっしゃいます。しかし一方で、街を歩くと「がんばれ熊本」と書かれた看板を掲げているご自宅や、お店などもよく見かけます。地域と企業が一体となって協力し合い、復興に向けて進んでいるんだなと大変心強く感じます。私達も微力ながら、今後も地域の皆様のお役に立てるよう励んで行きたいと思っております。

倉岡 美奈

発災期

- ・自宅避難者の安否確認。
- ・指定避難所を中心に訪問し避難所／者の把握と緊急対応。



本震翌日は担当利用者の方の安否確認や電話対応、自宅から避難できない高齢者宅を訪問し、避難を促したり誘導する対応を行いました。

展開期

- ・大牟田市白川病院からの緊急支援。避難所の避難者を搬送（主任ケアマネとの連携）。



熊本市内の病院が機能しない中、大牟田市の白川病院が、車で駆けつけ医療的に支援が必要な方を受け入れて下さいました。

展開期

- ・江南病院／フォレスト熊本（医師、看護師、広域リハの応援）。



各避難所を、江南病院やフォレスト熊本の医師、リハスタッフ、看護師が巡回し、医療的な相談対応や体操指導を行いました。

展開期

- ・他都市からの避難所運営支援開始。



避難所での対応が難しい方や、体調の優れない方々の健康管理の相談と、その対応を行い、情報の共有化に努めました。

展開期

- ・佐賀県からの支援物資の到着。



支援物資が届き始めたものの、まだ十分ではない状況。そんな中、佐賀県から水やお米、野菜などたくさんの支援物資が届きました。

生活期

- ・大牟田市中心包括支援センター、花鏡からの支援。

避難所を回り、災害V.O.の案内や在宅へ戻れるかの聞き取りなど帰宅支援に向けて様々なお手伝いをして頂きました。



生活期

- ・NPO法人ADRA Japanより、避難所の避難者への継続的な健康支援。

チームの方々は、毎日避難所へ足を運ばれ、避難者の健康状態等の情報を定期的・継続的に当包括に伝えて頂きました。



生活期

- ・くまもと青明病院（DPAT的）より、避難所の避難者の心理的ケアの支援。

他の避難者の方々と馴染めない方々が出始め、心理面での支援の必要性を検討。くまもと青明病院やウィズに支援要請を行いました。



展開期

- ・熊本学園大学の避難所より支援物資譲渡。

指定避難所により、支援物資に差があることが判明。行政への支給依頼と、不足している避難所へ学園大学より物資の譲渡を受けました。



展開期

- ・ゴースローさんからの支援物資譲渡。

様々な方々からの支援物資や情報を頂き、指定の避難所はもちろん、指定避難所以外の公民館や集会所へも支援物資を届けることができました。



生活期

- ・熊本市社協の災害ボランティアの片づけ支援。



連日に渡り県内・外から多くのV.O.が来られ、自宅の片づけや災害ゴミの運搬などお手伝い頂きました。

連日に渡り県内・外から多くのV.O.が来られ、自宅の片づけや災害ゴミの運搬などお手伝い頂きました。

回復期

- ・学校再開に向け避難所運営会議に参加。



避難所の今後の方向性が連日協議され、学校再開に向けて全員が一丸となって話し合いが行われました。

避難所の今後の方向性が連日協議され、学校再開に向けて全員が一丸となって話し合いが行われました。

回復期

- ・避難所縮小に伴い避難所運営者とは他機関（ウィズ等）とで個別支援を強化。



中央区役所保健子ども課の保健師さんやウィズのスタッフと共に、在宅に戻られるまでの支援を行いました。

中央区役所保健子ども課の保健師さんやウィズのスタッフと共に、在宅に戻られるまでの支援を行いました。

回復期

- ・尼崎市、熊本市市民病院より在宅避難者の実態調査及び支援。



確認のため、実態調査に回って下さいました。

尼崎市、熊本市市民病院の方々が、実際に帰宅された方々の健康状態や困り事の

回復期

- ・実態調査後、自宅避難者への心理的、社会的支援を実施。



実態調査の結果を基に、支援が必要な方のお宅に包括職員が訪問。住替えに関する相談や転倒などの体調の変化を訴える方もいらっしゃいました。

実態調査の結果を基に、支援が必要な方のお宅に包括職員が訪問。住替えに関する相談や転倒などの体調の変化を訴える方もいらっしゃいました。